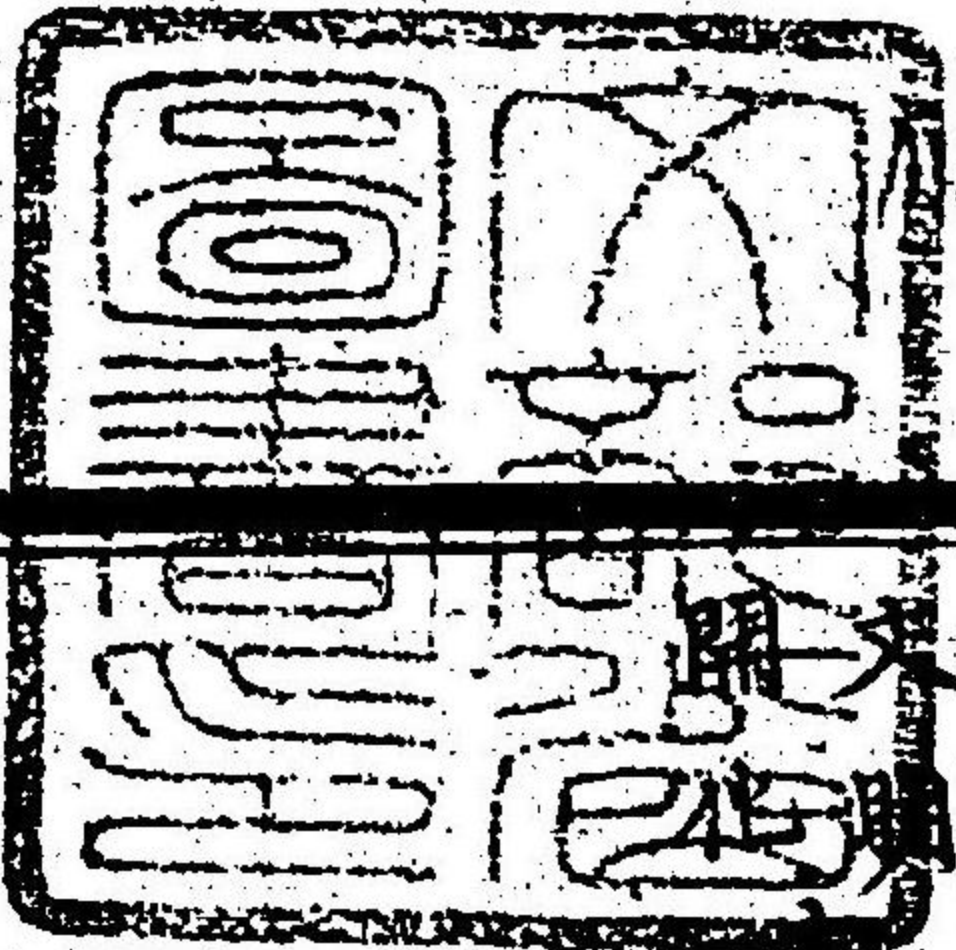


東洋圖書



内外事情卷之三

○乗合車の事

死化の國々の自由自在ある大約を

現今ハ日本も次第と開化と赴く

蒸氣車と馬車人力車等路傍に立て

客の来ると待つものは數多かりて往古此

東江學人纂輯

ハ其自在あるあり云りんうとあり猶横濱の人
よて東京一芝居見物来り其日帰るなり又
ハ軍談師の類して東京と横濱の兩席をわけ持
とまざる者も有りありを以て世の開化に至る
と随て自由自在ある一端を知るべし○西洋開
化の國々より車の種類も至て多く乗車り運
車り此車と大抵馬と挽りめ牛を用ゆるあ
りあり平日食品ありと運取も荷を運ぶるも

皆輿内積置る馬を以て之を挽りり賣人を
自御車ありて賣あざり行日本車力肩
檐の類あり故西洋の車力肩檐ハ皆馬に乗
往くあり可あり○乗車も又數種の別り
りて一二人を乗せり飛車り五六人を容る
りりり或ハ十人余を運ぶ車り又二輪
のりりり四輪車り馬も一疋を用りり二
疋或ハ四疋挽りりり中産以上のりり

ハ大抵乗車を所持するもあれども又乗車数多と
 貯一人を載るを以て家業を営むははらり之
 ハ現今日本の人力車の如く十字街まわりの人民
 の輻湊る繁昌の地に至て客の来るを待つあり
 車賃ハ大抵日本の半里に付て一朱位の割あり
 是ハ立くつろ相辨し御車馬に鞭を打つる
 ゆく甚だ迅速あり又嚴冬の時に至て車の下
 脚を暖むる湯を設けて車内を自ら温くあり

馬車人力車
 往来
 繁昌
 の番



西洋人の安樂を極むるあり之を推して知るなり又孩車として小箱に兩輪を設け此内を孩兒とのせ子守として推し行ひしむ故に侍兒までも孩兒を脊負ふが如きは甚ぶ少あり其外蒸氣車等都合東西南北も走るもは更と絶る間も何時何所へ往くも自由自在あり信極樂世界しりふしり尚便利自由ある事柄を次論せん

○瓦斯燈の事

瓦斯燈は石炭と釜の内へ入る氣の漏れを様々之を蒸し焼くをききバ石炭の油より炭の氣を發せ此氣ハ炭化水素瓦斯といふものにて之を火と點き燃へ至て明るきものなり日本も今般横濱より高島屋よりする者此瓦斯燈を造り戸々街々と照き實に美事なりしりしり西洋諸國よりハ大抵此瓦斯燈を用ひ已むを得ざ

時と臘燭を用ひて油を用ゆるまゝハ極稀あり
 此瓦斯の仕掛の大略と云ふ大釜とて石炭と
 焼と云ふ瓦斯を集め置と是より地の下に鐵
 の管を埋め四方八方と導と又是より小枝を附
 けて全街の地中へ彌蔓し瓦斯ハ此管中を曲折
 流通しつゝの至る所あり是より
 又小管を附けて每家室内の便宜ある所へ導と
 此小管の先へ螺口を設けあり火を點すと燃

則ち夜燈あり又街道の橋上等も半町許
 毎く瓦斯の常夜燈を設け往来を照らし行人の
 為且盜賊を防ぐ故に満街取々として夜中とい
 へば晝の如し故に西洋より燭を携て夜行せ
 る者あり○瓦斯燈の最も盛あるハ英吉利を世
 界第一と云ふ是英國ハ石炭を産するあり最も大
 ありと云ふあり英國の都倫頓中に在る所の大鐵管
 の長さ凡日本千里と云ふ瓦斯燈の會社十八

けらと皆此會社にて瓦斯を製し毎夜一燈を用
 ゆる者ハ何程して市中家々を賣らあり○夫瓦
 斯ハ風の如く流動するもはよく其内へ燃る質
 を備ゆるゆつ之を用ゆるも宜く心を用ひそ
 れを大害を生ずるありけり若し誤て管の口と
 開き火と點きし時ハ瓦斯室内へ流出し遂
 し瓦斯全室へ満るとしつゝも目に見えざるゆ
 へ誤て火と近くと直ち一室火となり火災

瓦斯燈の番



と生むるありりと○此瓦斯燈ハ千百三年
の井ンリルより獨逸人倫頓ノ来リ瓦斯と芝
居シ施セリあれと瓦斯燈の創め一其後同人
の工夫より此瓦斯燈を以て市街を照らし戸々
の燈ノ代一千八百十四年より倫頓の都府中瓦
斯燈のありざる所あり至り

○病院の事

病院とも貧乏人の病で醫と招き薬と得るあり

能ハとも者と療治する所あり西洋開化の國よ
てと歡樂を極むる風習より皆富家なるの様
に思ひも決して左より富家もなり又
極貧窮のものも有り去りも病院貧院等の設
けりて之を救ふゆる路傍に餓死する如き
憫然のありあり日本も現今ハ御上より厚
くあせりて病院ハ所々出来乞食の如く
宿ありも皆夫々生活を營むる至れり古く比ぶ

れを實に難有ありあらずや西洋諸國の病院も
 政府より建するものあり又富商豪家あど資金を
 出して建するものあり又病院に入る者も極貧宛
 あり全く藥料を出さざりとも少く家産あり
 ものは夫々些少の醫療の費を拂ふ又病より
 て各其病院より仮令に狂病院熱病院の如く此
 病院の法も國々異なりて異同あり今英吉利病
 院の大略と述ぶ○倫領中より病院の數甚だ多

其内尋常一般の平病院の數大小四十ヶ所余
 りて病院貧院の總費を計ると一ヶ年三百四
 五十万兩あり又侍病人も皆婦人にして醫者
 より之を侍病の法方を教へ病人を注意し侍病
 之慢急ありて此侍病人佛朗西よりて男
 女の兩様ありて男ハ男の病人に屬し婦人ハ病
 婦に屬し病者五人に侍病者一人の割あり○
 倫領より大病院の一番大ありものは六百

五十の寝所有りて病人ハ一年に六七千人病院に入らざれば療治を受る者大抵七萬人位薬の費用大約七八千兩あり○又シントトーマスといふ病院ハトーマスといふ書賈より金七十一萬五千兩程出ーホントといふ富商より九三十五萬七千兩を出して建たるものなり毎年病者五万人より六万人を療治せしむ○又學校に屬し學生の患疾を療する病院あり○

又療病船といふものあり是ハ古き軍艦を以て病院とありたりは船艦の輻湊する所なり外國より来る所の水夫の病たるものも療治し救ふ所あれば外國水夫の毎年療治を受るものは二三千人乃至○以上あり所々平病院の大畧あれども其病症よりりてりくの病院あり左の如し

○狂病院の事

狂病院きやうびやういんに發狂はつきやうする者と療治りやうぢする病院びやういんあり
 此病院こゝもりりくはきども一番宏壯こうさうありりりハ
 間まさ凡百七十間四方りりて四百人の病者と容
 多おほく其建たる時の費用しゆぎん九三十六七万兩りりて
 毎年まいねんの入用しゆぎん七万兩余ありり此病院こゝもハ一入
 毎まい一室いつしつと與あり病症びやうぢの輕かろきりり室むろより出でり
 院内いんと出行しゆつぎり或ハ球たまごと投なりりり或ハ花はなと
 採とり或ハ歌舞かぶり或ハ繪ゑと畫ゑく等運動じゆんどうり且歡樂かつらん

ヤやも又狂氣きやうき甚おほくりり別べつに寤室ごしつと設たけ
 て此内こゝに置おき又發狂はつきやうする人と害がいせり者のみと
 置おく所ところりり此狂人きやうじんハ其病平癒びやうへいじゆするりり人を殺ころ
 一或ハ火ひと放はなて人家にやと焼やりりり大罪だいざいの者ハ
 院内いんりり一生いつしやうと終おりりり総すべて此病院こゝ内うちに甚おほく
 清淨せいじやうりりり所ところ々々りり小鳥こてうと飼かひ金魚きんぎよと養やしひ鉢植はちち
 物ものと置おき樂器がくぎ筆墨ふでぼく等らを供たへ閑静かんじやうを主しゆりり人意にぎ
 と樂たのしむ其療法しゆりやう實じつに盡つりりりり其外そゝ

勞瘵院 眼病院 脚疾院 種痘院 等數ふる暇に
實に仁惠の至らざるありしや

○貧院の事

貧院ハ往古日本も御救小屋といふ所の
の類にして身体の不具あるもの或ハ貧究として
活計うへの無きものを入して養ふ所あり其内
老院 幼院の別ありて老人ハ終身かく養ひ幼
少のものは學術技藝を教へ活計の方法等を知

るに至て之を出せり又貧究極るものは暫く此
貧院に入るものあり又貧窮人子を生みて養育
せんば我稼ぐ妨とあり活計と差支るものは晝
ごとく其子を院に預けり夜も家と連き歸ら
せり○貧院の内には棄子院といふものあり
り此院方今英國ありても父母のなき貧兒
或ハ父母のなきも密通して子を生み之を表
向くものあり能くも小児のみを養ふあり是

も創て建し〜と〜と棄子を養ひたり〜と棄子の
 来る〜と駭〜三年十月の間〜一万四千九百
 三十四人の棄子ありて何分養育の法行届げ
 其内一万三百八十九児を死亡せし〜と今
 如く法〜とあれ〜と去れ〜と魯西亞の如く土
 地廣く〜と人口少〜と國々〜と今〜と棄子あり
 て子と棄る時ハ棄子院の戶外〜と子とあり〜と戶外
 鈴と鳴〜と来〜と院より出て其子と

拾ひ衣服を興一乳母と附けて丁寧〜と養育〜成
 長〜と〜と〜とつて學術技藝を教〜と活計の道
 を知〜と及んで之と出〜と〇貧院ハ政府より金
 と出〜と建〜とけり〜と又人々申合せ會社と組
 て建〜とものり〜と英國の首府倫頓〜と貧院の數
 都合四十ヶ所あり〜と大あるハ四五百人と置く
 と貧院の會社〜と其仲間〜と入り毎年若干の金
 と出〜とと約束〜とけり〜とあり又日本

内外事情 卷之三

十一

て堂宮一寄附する。如く何人よても貧院一寄
附するの法。此院に入るも、其才力、應
ト莫大小と組む。或も繩とあひ洗濯と
す。等皆夫々の手業と為し、其内何分と
院の入用とあり。

○啞院の事

啞院とて啞人と教ゆる學校あり。此學校にて
只啞とて集め、語學、算術、天文、地理、學等と教

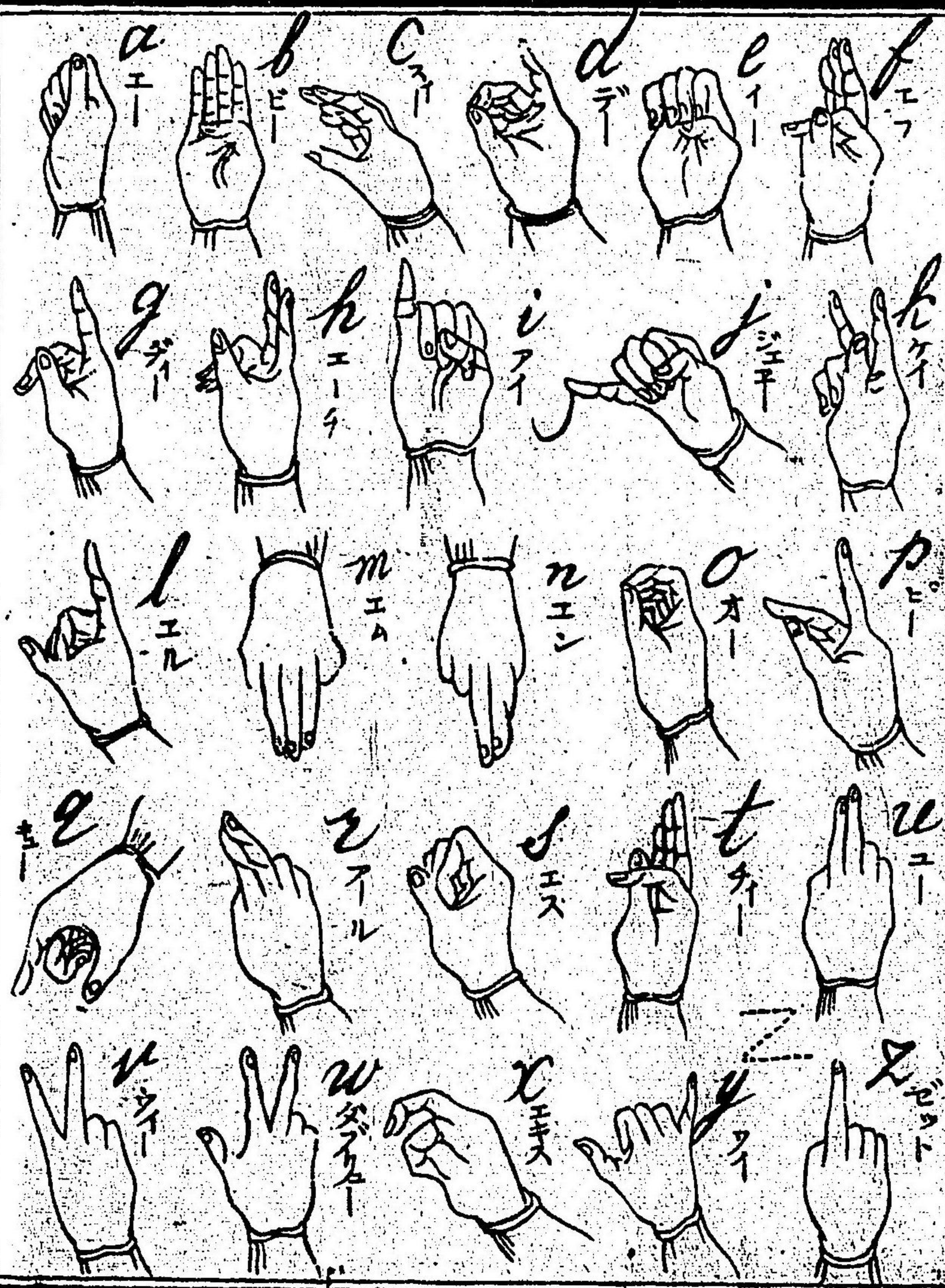
授き、通例の學校の通りあれども、初て此校
に入るも、此より次、の番の如く指を以て、エ
ロシ二十六字の記号と為き、教へ、次、他人の
言ふ時、其舌唇喉等の運動と見之と、真似するも
り、是啞子ハ天性音声を發と、機器の具り、ざる
る、非ら、れ、只耳のさ、る、え、ざる、と、由、り、人、の、言、語
と、聞、き、之、に、效、り、て、唇、舌、の、運、動、と、覺、し、五、音、を、調
和、し、能、く、し、る、も、此、あり、耳、の、聞、ゆ、る、者、し

て堂宮一寄附するが如く何人をもも貧院一寄
附するの法あり此院に入るもはた其才力に應
じ莫大小と組むればり或は繩とあひ洗濯と
する等皆夫々の手業を為さる其内何分とを
院の入用とあそ

○啞院の事

啞院とは啞人と教ゆる學校あり此學校にて
只啞どもつとを集め語學算術天文地理學等を教

授き、ハ通例の學校の通りあれども初て此校
に入るもはよまづ次の番の如く指を以てエ
いし二十六字の記号と為きを教つ次は他人の
言ふ時其舌唇喉等の運動を見之と真似するあ
り是啞子ハ天性音声と發と機器の具りしる
る非らぬ只耳のこころえざるより由り人の言語
を聞さ之に效りて唇舌の運動を覺し五音を調
和する能はざるもはあり耳の聞ゆる者し



ても嬰兒の時と五音より漸々他人の物言
 ふを耳して聞き自然に舌の運動を覺て遂に
 五音を分別するに至るも此を故に啞子ハ只
 他人の言語を時口の運動がりと真似し音声
 を發するのみを學ぶあり既に音声と發するあり
 と覺ゆれば他人の言を耳し聞くあり能はば
 其唇舌喉等の動機を見て其言葉を解し
 話し談話するを得るに至るなり

古今圖書集成 醫部全錄 卷之三 十一

○聾院の事

聾院ろういんとて聾者ろうしやの學術がくしゆ技藝ぎぎを教おしゆる學校がくしやうあり此校こも大抵おほむね啞院えいんと同おなく盲入めいじゆと讀書どくしゆを教おしゆるハ厚紙こうしと凸字とつじを壓印おしするものねを指さの端はして摸もり讀よみ又また算術さんじゆも算木さんぼの如ごとき器械きかくありて之これを動うごかし加減かへん乗除じやうじゆより天文てんぶん測量そくりやうの難算なんざんに至いたるまで成ならざるものねあり其外そのほか鞋かぢと造つくる布ぬいと織おり莫大もくた小组こぐみ音樂おんがくとあす等らう皆夫々みなみなの工藝こうぎと

學まなび之これと恒とこの産うみ為なる聾者ろうしや啞子えいしよりつとも更さらに廢人えいじんあり街途まちぢうに哀泣あひなきの聲こゑを聞きうべし實じつに仁にん政せい至いたれりよつと一いっ文字もんじの數かず少すくきもよつと此啞院こゝのえいん聾院ろういん等の教おしる殊ことに反復はんぷく丁寧ていねいにして倦うむると主しよとまゝるうゆつと教師かぎしハ大抵おほむね女によありりよつと○又また佛蘭西ふらんし荷蘭おらんぢ普魯士ぷろし等の國くに々々に痴兒院ちいじいんとて天稟てんれい智惠ちゑある兒童こどもを教おしゆる學校がくしやうあり此學校こゝのがくしやうにて教おしる法はうハ殊ことに丁寧ていねいにして

書ハ皆大字を用ひ語を教ゆるも或ハ繪とか
とつるものも品物を造り其傍に其語をつけ幾度
も之と讀て漸々解さしめ遂に讀書算術等と
為まゝ至る此外女子よも歌舞を教ふるごとく
廢人と全人ともあまゝなり

○浄水管の事

西洋諸國の市中も日本の如く井戸又も溝渠
のりるも甚だ稀くて大抵地の中に鐵管を埋め

日本の水道の如く浄水を送るもろく又も汚水
と流出を管り又瓦斯燈の管り故に地下に
も一世界の如く如く扱浄水管ハ市街より數
里距り清水のりる所ありて一の大池を造り
其傍に砂濾の仕掛と設け此所より鑛造の大管
を以て其清水を引る遂に市街に來る既し市中
に來ると無數の小管を以て數所よりろり市中
の戸々到らざる所あり戸々之を汲りて其小

管より又細き枝管を附け庖厨の傍に引く或は
 庭中に引く樹木に注出さるものあり又往来所
 々に汲所を設け平日ハ蓋を為し置夏炎天の候
 風塵と起す時之と開きよき仕掛して街道に灌
 注す或ハ防火の用意とあり其水殊に清潔
 て便利極まりあり英國の倫頓にて毎日
 百六十万石余の水を供せし去きども尚不足
 ると以て十五里余を距ちたるヘルトホルドに

しる所より水を引くの企と起し千六百十三
 年に至りて落成し其入用百五十万兩あり

○汚水管の事

汚水糞掃溜等の臭氣ハ人身の健康に害を為し
 しはあまに勉めて家辺を清潔よき故に西
 洋に溝渠の如き腐水の在る所あり汚水管と
 て直径一尺を以ての鉄管無数と地中に造り全
 街に折曲り漸く導て海に到らし此大管より

庖厨の傍に枝管と導き洗水の流出を所と設け
 其管口に鐵の網を置き以て汚水の流去て
 蔵敷の流を込むを防ぐ又人の糞も雪隠より糞
 水流きて此汚水道に入るあり但し雪隠ハ一度
 毎に水を灌ぐ装置ありて實に清潔あり此水
 道ハ深く地の下に在るゆへに人々汚氣に觸る
 むもあく且急流あるを以て留滞するもあく
 夏といふも蚤蚊の憂あり然るも十年毎に

ハ此管を修補するに○往古倫頓に在る汚水管
 々テムスといふ河一流と出せしが都會の
 全街より流出を以て其高きありて多く河岸
 に住居ふ人々或ハ河上と往来する舟人等其汚
 氣の爲に害を受る者多し依て千八百六十四年
 今の法の如く改正し安樂に至るなり其法ハ
 倫頓市中のテムス河に流し出さるるを廢止
 め之を海に流し出さるる工夫あり其入費凡九百万

兩ありと○西洋も日本の如く路傍に小便桶を
 のけりありとあり市中所々尿舎を造り壁をうけり
 ひと板をして一人毎に區別し各々別々に尿せし
 め此舎の上に浄水管を導き毎に水を滴流せ
 ゆく小便の其水と共に流して去り遂に海に到り
 人々尿臭を觸るゆゑあり○又貧民僮役ありつ
 て毎に車を引き市中を掃除して歩くゆゑ
 又食監して時々魚市肉店等に往き食料を吟味す

きる役人あり是等ハ皆人命と重んじる所あり
 日本も方今ハ路傍に尿舎を造り溝渠とし
 せ市中を掃除する者ありて市街を潔清して
 實に開化の至ると見ゆ

○造幣庫の事

西洋諸國も大抵楮幣を用ひるハあり其
 價もりりりり又此役所も貨幣を造出し
 金銀と出納する等のありと司るあり其造幣の

ハ皆器械と用ゝ。其精巧。捷速。思慮。及バ。如。此役所。固。楮幣引替。の現金と備。置。理。一法。更。其法。此役所。預。諸民の金と預。故。諸民貨と殖。者。皆此庫。預。け官府。受寄券と受取。通例三四分の利。且。下。入用の時。如何程。

其入用。金の高と受取。勝手次第。假令。金千兩と預。一兩の金券千枚と受取。置。其内十兩入用。金券十枚と納。て十金と受取。故。富商豪家。自。土蔵と造り蓄財。故。盗難。災の憂。且利足と得。至極便利。又貧民。其日高。或ハ出稼。考。少。金と蓄。家。

火災盗難の憂あり又他人に預け無盡く加ふるも
 奸者の為に欺うんで百日の心苦も一朝の煙と
 あるうらりう回て之等の為に一錢一朱より預
 る所を設け利足も多分よ興へ貧民として蓄財
 の手段と為しむ是ハ實に法あり何卒我
 日本もても此法を御設けりらる事あり人々
 いひても病氣災堆等不意の入用もあらむはあ
 まふ壯健の時少々づの金と貯へ置かざる人

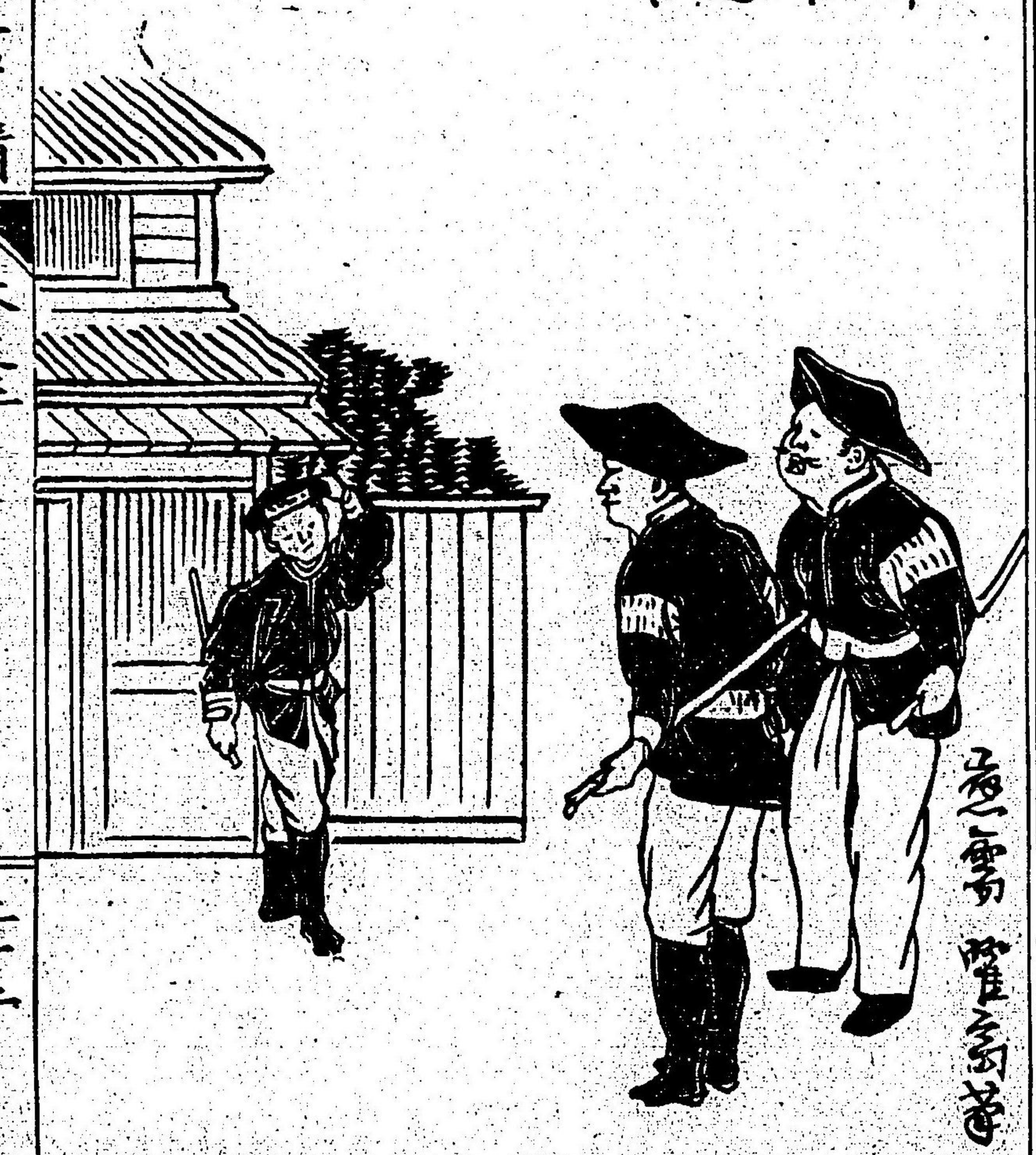
の常あり去せども今上よ云ふがごとく其日稼の
 者もて一時に他人に預ける程の金を得づる所
 謂もあけきざ僅一朱二朱の余分りるも遂無
 益に費したるく災難に遇ひ一錢の工面も出来
 ず或ハ家を失ひ身を亡し或ハ罪科に陥るりの
 事少ありしが亦憫然の至りありきや

○市中取締の事

西洋諸國の都會ありし人民輻湊の地へ取締

人と置^かる^る晝夜怠^らず巡邏^して市街^の非常^と警^め
 め行人^の不法^を正^すし少^くも變異^の事^を
 直^ちち^と之^を取^り押^さる^る故^に市街^をせ^りく^く
 塵^ほを捨^り置^かる^る車馬道^を妨^げ酔人^と暴客^の人^をを侵^す
 せ^りのあ^らふ^一日本^もも方今^ハ此法^{御採}行^は
 ひく相成^ら邏卒^番人^等皆夫々^持場^のり^りて晝夜^嚴
 重^く巡邏^をせ^り更^に盜賊^乱妨^人の^のり^の事^を聞^き
 ら^れ又^迷子^と教^導せ^り等^總て市中^ハ生^まる^る變^り

羅卒
市中
と巡



夜更の羅卒

内々事州

二十一

事ハ皆之を取扱ふ故に人民群集の地とすべし
 混雜騒乱もあはれあはれ萬人其便利を喜ぶが
 る者あり此取締を置くの法ハ千八百二十一年
 英國の公議よりつて定りたりとらふ

○西洋家造並風俗大畧

西洋諸國繁華の地に住る家屋ハ悉く石造或ハ
 瓦造より四階五階より八階位を造りて木
 造のものは屋根を葺くはスレートの薄

石を以て障子を皆硝子より其美麗ある
 云々方あり殊に夜間ハ往來の常夜燈
 火を點一家々硝子燈と飾るがゆへ最も美觀
 あり此家も往昔ハ木造ありが火災度々ある
 竟に此風とあれりと此家と建るとも
 石と切るとも皆蒸氣器械を以てするゆへ殊
 速うありと如斯く連軒石造の家ありとも倫頓
 あり大都會として諸民輻湊雜留の所あるゆ

一火災甚ど多く今より十年より前火災の一
 番多うう一年より一年より千百八十度余り故
 り火消人足もあらず又ポンプより龍吐水より
 又五階六階の上へ掛る鐵の梯子より巧く荷
 と出し又火を防ぐといふ○西洋の風より中等
 以上の高賈も皆都下より遠く本宅と構へ園庭
 築山等閑静の趣向を備へ繁華の市中より出店
 と置る日々蒸氣車又も飛脚車に乗て其處へ出



西洋
 家造り
 風俗の面

勤一夕刻帰宅の後ハ更ニ商業を勉めるのみならず
 若一用事あるも本宅ニ抵るあり故ニ
 日本ニ寄留せる西洋人も多く此風とあり去る
 ども如何程の大商人よても皆自ニ家業ニ勉強
 一番頭手代ニ任せ置くが如く懶怠の風あり○
 西洋の風より最も奇あるハ女と先ニ男と後
 一と是あり女々男の上席ニ坐り婦人ニ逢ハバ
 男子帽子を脱ぎ婦人の前ニ在るニ漫ク煙草吸

ハバ女客起つるも男客起るを得ざる
 中等以上の家産あり主入も外ニ行つて家業
 と勉勵するも婦人少シも家事ニ關係
 せず只樂みの為ニ縫物業樂あがると為るのみ更
 一課業あり男子妻を迎ふる為ニ大ニ貨財を費
 一家産と傾むけるも此の如く○西洋よりハ同
 室ニ大勢寝るありあはく大抵一人毎ニ寢室を別
 一と其室より皆錠鎖を備へ室ニ入ても皆内よ

勤一夕刻帰宅の後ハ更ニ商業を勉むるのみならず
 若一用事あるも本宅ニ扱ふあり故ニ
 日本ニ寄留せる西洋人も多く此風とあり去る
 ども如何程の大商人もても皆自ニ家業ニ勉強
 一番頭手代ニ任せ置くが如く懶怠の風あり○
 西洋の風より最も奇あるハ女と先ニ男と後
 とも是あり女も男の上席ニ坐り婦人ニ逢ハバ
 男子帽子を脱ぎ婦人の前ニ在るを漫ク煙草吸

ハ女客起つとも男客起れざるを得ざり
 中等以上の家産の者バ主人も外ニ行つて家業
 と勉勵も一ツとも婦人少しも家事ニ關係
 せバ只樂みの為ニ建物業樂あがと為とのみ更
 ニ課業あり男子妻と迎ふる為ニ大ニ貨財を費
 家産と傾むけり此の如く○西洋も同
 室ニ大勢寝るありあはく大抵一人毎ニ寢室を別
 よき其室も皆錠鎖を備へ室ニ入ても皆内よ

り錠とくぐり毎朝起きばつらぐ室内にて手盥ひ
 修容して後に出づ又孩児を抱て臥せしめあぐ
 籠の如く寝器にうつて之に臥せしめ昼間も抱提
 て歩行するありあぐ大抵孩車に載せて行くあり
 う○又西洋人にも世事謙退の風あぐ仮令バ客
 の来る時も其客酒を欲せしむるに與一欲せしむる
 與一に最早たぐんあぐ云々敢て強ゆる
 あぐあぐ又客も速慮をせしめあぐあぐ欲せしむる請

ひ欲せしむるに辞ま仮令酒を飲とも爛酔に至る
 の風決してあぐ又酒間し歌舞するの風あぐ酒
 宴あぐらて後し琴胡弓の類を奏し或ハ踏舞を
 するあり又酒間し煙草吸ふありあぐ酒宴を
 するあり或ハ別間し至て吸煙し然も坐中し
 婦客らもバつら其許を乞ふて後し吸あり是西
 洋の婦人も吸煙せしむるゆゑ失禮ありしと之等
 ハ皆其國々の風儀ゆゑ我國に在ると無用の様

あまもよく心得置て西洋人へ接する時、少
 しく斟酌せしむる我國の失禮にあらずとも
 彼の風より失敬にあらず賤しみを受あはざる
 べし。○又西洋の風より子生むるを懐て寺院
 へ参詣し教師を請て沐浴せしめ名を附るあ
 日本の宮詣し神祠へ詣り如く又人の婚
 姻するに教師来て经文を誦み之を誠む是
 日本のあま風あり又人死する時親族朋友を

集め教師を招き经文を誦讀し畢て寺内へ葬り
 其上へ墳墓を築く等の禮式も大抵日本と同じ
 但し此三事ハ必き教師の媒介を得て禮式をあ
 る。○又洋人ハ誕生を重むるあま死より甚だ
 く誕生日より親戚朋友と會し賀宴を開きて之
 と祝ふ殊に國王の誕辰より國中皆其業を休み
 上下互に相賀し或ハ祝炮を發し夜に到き或
 ハ花火を揚げ或ハ小民巷街へ群集し相祝賀

きりあつて日本にて

今上皇帝の御誕辰日をも戸々日の丸の旗を建

軒提燈をつけ上下一般相賀するが如く○西洋

よつと士農工商の四民の進ぶも上下貴賤の區

別嚴重あつて縉紳の士大夫とつと國法を

犯さずのまゝりきと罰を敢て貴賤の斟酌

りるまゝあり又下民とつと國王と同名あるも

妨げあり又縉紳家とつと平主と從者と連

るまゝありして獨歩し或ハ乗車を用ひて下民

と異なるまゝあり又國君とつとも錢貨を自

由よつとの威權あり其賄料も官吏と同様一

年何程し議事院とつと定むるもけあり尤其時の

事情よつと増減りる由ありとも通例の所と

左に擧ぐ

英吉利 百十五萬五千兩

佛蘭西 三百萬兩

魯西亞 三百四十八万九千九百兩余
 普魯士 百四十万八千八百兩余
 和蘭 十二万〇百五十兩
 白耳義 三十三万二千二百兩
 伊太里 百九十五万兩
 是班牙 百〇四万五千五百兩
 瑞典 八十七万三千兩余
 丁抹 二十三万五千四百兩余

葡萄牙 二十四万八千六百兩余

右も全く國君一身の賄料として此外大子王妃等も固より國王の親族ハ皆夫々の賄料を受取る

初卷よりあり略記するは皆世界一般に關し或ハ内外一般に關する所の風儀もまた一國夫々の風習もあつるものあり二編より一國々々其政府事情より諸吏の給料

錢貨出納等の事と記し猶初編に漏れりあり
と附録に出すべし

修身學
一名 道行之人

此書を著す婦女子と導く人の人たる
道を行くも著るありたり下
以て著るも著るも初善徳のあり
うかき著る程人のあやむかしく
いと知りて早く出来りては道
と知りて早く出来りては道

明治六年六月出版

文明
開化
内外事情卷之三終

萬卷樓製本書目錄

古今
極浦塚本明毅
成齋重野安釋 閱
萬國綱鑑錄 全三冊

東陽大槻誠之訓點
後藤達三編述

業訓
窮理問答 全六冊

壬申六月出版

業訓
窮理問答外編 全四冊

大正書局
卷之三
三十一
三十一
三十一

英國法律全書

全七四冊

賴利屈斯內翁編輯

君德星先生譯

星亨君德纂輯

海外萬國偉績叢傳

全八冊

藤井伸直夫校正

壬申十月出版

蕉雨堂主人編纂

內外各種新聞要錄

全五冊

明治六年第月出版

富國新編

編年日本外史

東江學人纂輯

文明開化內外事情

全十冊

明治六年第月出版

齋藤政善編

勳辭篇

全五冊

明治六年第月出版

習字 萬國地理訓蒙

全二冊

小學校讀本

明治六年第月出版

出版書目

二 康生代

佐藤信景
三毛 證 校

辨

全五冊

中村正直 譯

共和政治

全六冊

阿曾治恒 齊 譯
村上誠一 郎 校

窮理大全

全九冊

二橋貫一郎 著 書

童蒙習字本

全一冊

山田保 纂 正
田 脩 校

史

全五冊

福井信重 校

壬申九月出版

武藤重之 同 編
塚原 靖

針

全四冊

附答式

謝海漁夫 譯 話

脩身學

全六冊

一名

入之行道

明治六年第六月出版

西 橫 濤 文 彦 譯
阿 部 弘 國

養生論

全二冊

明治六年第七月出版

出版書目

三 東 正 式

白幡義篤著

國史字類

橫本

全一冊

辛未正月出版

白幡先生著

續國史字類

橫本

全一冊

明治六年六月出版

水野旭山校

系譜
頭書
日本外史便蒙

全二冊

田代義短譯

圖解
機械事始

全二冊

壬申十月出版

訓蒙
必讀
開知問答

明石朝幹
合譯
越歷新編

全三冊

明治六年六月出版

大槻誠之
長田德鄰
技解

訓蒙日本外史

活字板

明治六年十二月出版

宮本典晃譯

英學
童子教

全二冊

明治六年十月出版

山崎書局
四庫全書

瓊江河先生譯

世渡乃秋 一名經齊便象 全四冊

壬申二月出版

瓊江河先生譯

政治略原 全四冊

辛未十月出版

瓊江河先生譯

米國律例 全四冊

壬申正月出版

瓊江河先生譯

賦稅要覽 全二冊

辛未十月出版

尚堂柿内信順裁叔

市郡制法 附町村營得條目 全四冊

明治六年三月出版

杉山安親譯

牧牛說 全三冊

明治六年五月出版

桂澤先生纂輯

名乘字引大成 增補 全一冊

壬申十一月出版

清武松著

乘差筆記 全二冊

壬申七月出版

日本大觀東陽訓

山崎書局

塚本桓甫明教選

筆算訓蒙

辛未正月出版

全五冊

何幸五先生編輯

英和對譯書牘類例

神奈川縣開板

明治六年二月出版

全一本

英人スマイルズ著

西國立志編

原名

自助論

全十一冊

日本中村敬太郎譯

辛未三月出版

英人ミル著

自由之理

日本中村敬太郎譯

壬申八月出版

全五冊

古今

萬國綱鑑錄和解

英人ガラタマ氏著

英會話編讀本

全四冊

日本桂澤島一英譯

辛未正月出版

杉田玄端譯述

産科寶函

全一冊

明治六年五月出版

會計問答

大槻東陽編輯
皇朝沿革圖解

辛未正月出版

全一帖

英人テイブリス著
英譯漢語

辛未五月出版

全三冊

日本中村敬太郎譯
川北朝鄰著
洋算發微

壬申五月出版

全二冊

伊達千廣翁著
大勢三轉考

明治六年八月出版

全三冊

山本正至譯
川北朝隣著
幾何學原礎

明治六年五月出版

全八冊

静岡算學社中選
筆算遺叢

明治六年六月出版

全二冊

邨松良肅著述
皇朝假名史略

明治六年九月出版

全六冊

青木東江編
讀本
訓蒙物名盡

明治六年九月出版

全一冊

發

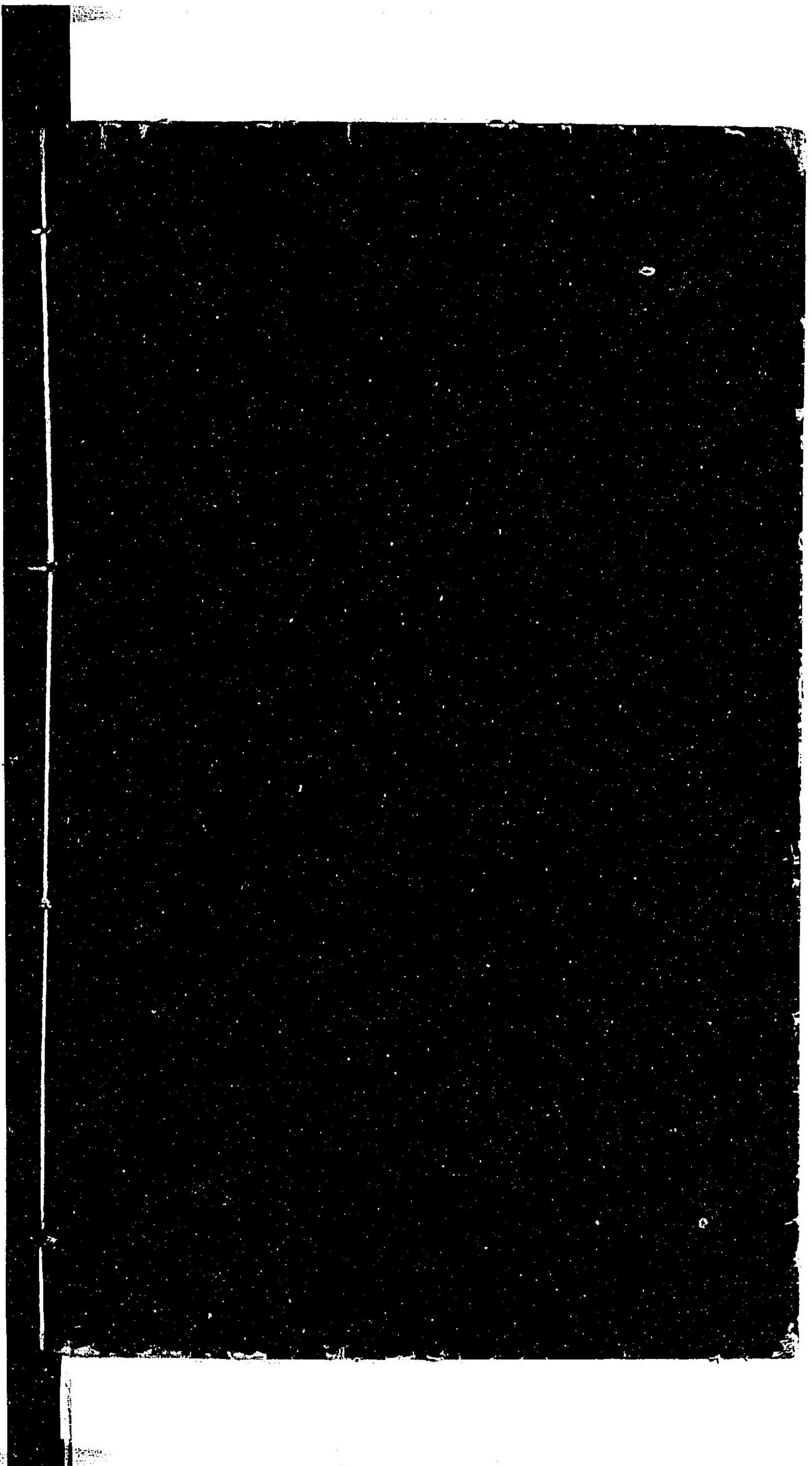
行

京町堀上通三丁目	河内屋正助
西京姉小路上八町	菱屋孫兵衛
同 寺町本能寺前	錢屋惣四郎
同 東洞院上八町	村上勘兵衛
駿州靜岡江川町	本村屋市藏
濃州岐阜伊奈波町	三浦源助
長州	山城屋彦八
甲府八日町壹丁目	藤屋傳右衛門
和州添上郡奈良高岡	高橋平三
越後長岡	鳥屋十郎
同	上田屋治兵衛
陸前仙臺國分町	菅原屋安兵衛

書

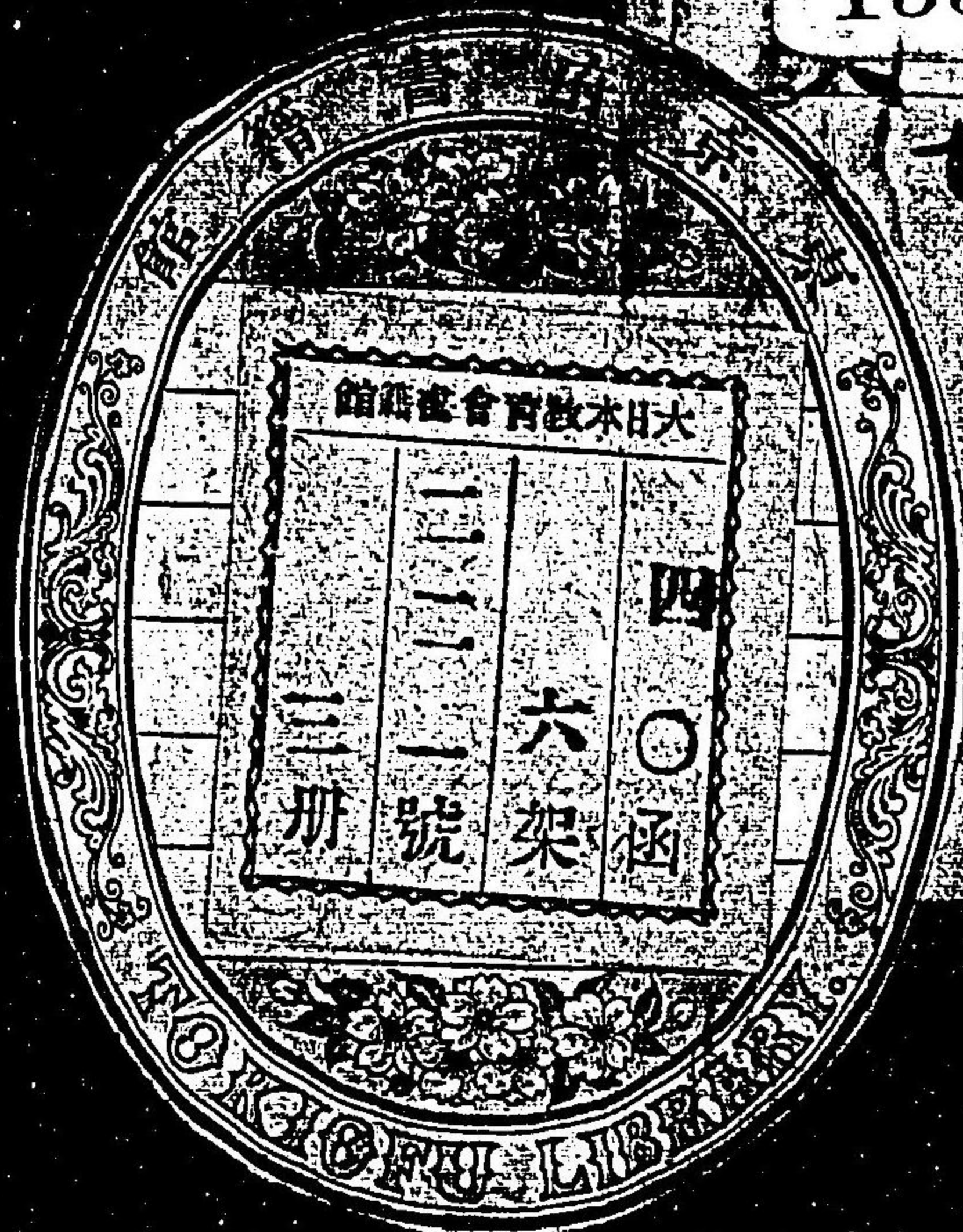
肆

會津若松	龍田屋萬助
加州金澤安江町	近岡屋太平
信州善光寺	小井屋喜太郎
上總木更津五町	織本仙五郎
下總千葉町	織本仙五郎
會津若松大町	石津屋壽右衛門
熊ヶ谷本町	杉浦平右衛門
下總千葉町	大浦屋長藏
駿州沼津上土町	本屋浦吉
越後長岡	中村屋作平
信州諏訪	藤屋機右衛門
武州川越南町	岸田屋文吉



特54

155



外事情